

日本紅斑熱の発生について

市内において、日本紅斑熱(4類感染症)の発生届がありましたので、北九州市感染症公表要領に基づきお知らせいたします。

- 1 概 要 令和7年8月29日(金)、日本紅斑熱の届出があった。
- 2 患者情報 京都郡在住、70代、男性
- 3 経 過 8月18日(月) 発熱、皮疹(紫斑)、下肢痛のため、A 医療機関を受診。
入院となる。
8月21日(木) B 医療機関に転院。皮膚検体採取。
8月29日(金) 皮膚検体の PCR 検査により日本紅斑熱と判明。

- 4 現在の状況 入院中(症状軽快傾向)
- 5 感染原因 不明
- 6 行政対応 患者に対する健康調査の実施。

7 日本紅斑熱の北九州市への届出状況(単位:人)

(令和7年9月1日現在)

	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年
発生届出数 (単位:人)	0	2	0	0	1	1 (本件を含む)

8 その他

- 患者及び家族等の個人情報については、プライバシー保護の観点から、提供資料の範囲内にさせていただきます。ご理解の上、特段のご配慮をお願いいたします。
- 本市においては、別添「《日本紅斑熱について》の予防のポイント」について市民の皆様に呼びかけています。
報道各位におかれても、別添「《日本紅斑熱について》の予防のポイント」の内容の周知にご協力いただきますようお願いいたします。

9 日本紅斑熱について 別添参照

《日本紅斑熱について》

➤ 日本紅斑熱とは

日本紅斑熱は、日本紅斑熱リケッチアを保有するマダニ(キチマダニ、フタトゲチマダニなど)に咬まれることで感染します。日本では、1984年に初めて患者が報告されました。発生時期は、マダニが活動する春～秋ですが、気候などで地域差が見られます。

➤ 症状

マダニに咬まれてから2～8日頃から頭痛、全身倦怠感、高熱などを伴って発症します。発熱、発疹(米粒大から小豆大の紅い斑点)、および刺し口(マダニ類に刺された部分が直径5～10mm程度に赤く腫れ、中心部に黒いカサブタや潰瘍のようになったもの)が主要三徴候です。重症化して死亡することもあります。

➤ 感染経路

野山などで、紅斑熱群リケッチアの一種 *Rickettsia japonica* を保有するマダニに咬まれることによって、感染します。

➤ 予防のポイント

- ・山林、草地、川原などに入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用して肌の露出を少なくしましょう。
- ・屋外活動後は、マダニが衣類や身体についているかもしれないため、速やかに入浴し、念入りに身体を洗い流しましょう。

【市民の皆さまへ】

- ・山林、畑や河川敷に行った後に、頭痛やだるさが強く、高熱が続いたり、発疹が出たりした場合には、早めに医療機関を受診してください。
- ・マダニ咬まれたときは、無理に引き抜こうとせず、医療機関(皮膚科)で処置(マダニの除去、洗浄など)をしてもらってください。
- ・また、マダニに咬まれた後、数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は医療機関で診察を受けて下さい。